

2011年(平成23)9月

カルメル  
靈性センターニュース



悲しみの聖母

2011年9月

268号

## 目次

|            |    |
|------------|----|
| 特集 カルメル修道院 | 1  |
| 心の泉        | 4  |
| カルメル会の企画案内 | 21 |
| 諸所の企画案内    | 39 |
| 献金のお願い     | 48 |
| 編集後記       | 49 |

## 特集 カルメル修道院

### カルメル修道会 教会の母マリア修道院（山口）

（この記事は修道院のHP作成に向けての試案として作られたものを、許可を得て掲載しています）



当修道院の名称は、山口カルメル会教会の母マリア修道院です。その形態は、観想修道院となります。カルメル会という名称は、聖地、パレスチナのカルメル山に由来し、会の起こりは、13世紀頃、カルメル山で生活していた隠修士たちに遡ります。

カルメル会は、16世紀スペインのアヴィラに生まれたイエスのテレジアによって、教会のため、人々の救いのために祈りに専念する生活様式に改革されました。その後、世界各地に広まり、日本には1933年フランスから東京に初めての修道院が創立されました。

現在、日本に9つの修道院があります。山口の修道院は1979年に7番目の修道院として創立されました。

#### カルメル会修道女の召命

私たちはおとめマリアの同伴と模範と保護に支えられて「イエス・キリストに心から従う」教会的生活を選んでいます。祈りのうちに神の言葉を聴き、典礼に与ることによって、祈りの時間だけではなく、生活全体において、神との親しい対話へと導かれることを目指しています。キリストを中心とする小さな共同体を構成し、神と姉妹たちへの愛を育み、支えるために自由に選んだ閉城の生活を生きています。この生活は、共同である念祷、簡素な典礼、霊的読書、沈黙と孤独の中での家事や作業、相互の助け合い、皆で共に語り合いながら過ごす喜びに満ちた休憩時間などで織りなされています。これらの生活のすべては、現代の人々の喜びと希望、苦しみと悲しみとの連帯のうちに、人々の救いと教会への奉仕へと向けられています。





### カルメル会の日

|                   |                                       |
|-------------------|---------------------------------------|
| 5:00              | 起床                                    |
| 5:15              | 朝の祈り<br>続いて 1時間の念禱                    |
| 7:15              | ミサ(一般の方も与れます)<br>ミサ後 感謝の祈り、<br>3時課の祈り |
|                   | 朝食                                    |
|                   | 朝食後、約 1時間 霊的読書                        |
|                   | 作業                                    |
| 11:25             | 昼の糾明を約 5 分間                           |
|                   | 昼食                                    |
|                   | 休憩時間                                  |
| 13:00             | 6時課の祈り                                |
| 14:45             | 9時課の祈り<br>マリア様の連禱<br>作業               |
| 17:00             | 晩の祈り<br>続いて 1時間の念禱<br>夕食<br>休憩時間      |
| 20:00             | 寝る前の祈り                                |
| 21:00             | 読書課                                   |
| ※ 夏期は時間割が変更になります。 |                                       |

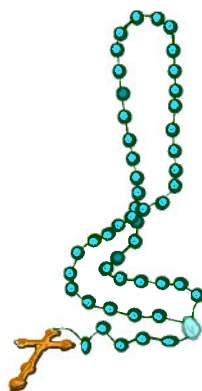


毎朝、山口カトリック教会の司祭が来院され、ミサが捧げられます。ミサは一日の生活の中心です。また、「教会の祈り」を一日の中で7回、聖堂で共に祈ります。

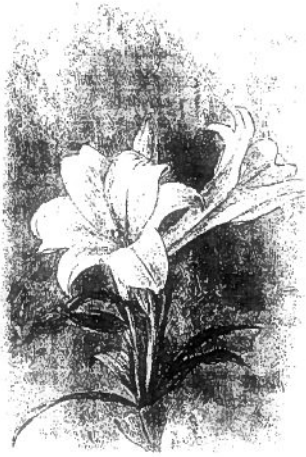
毎日朝夕1時間ずつ行う念祷は、キリストとの心と心の対話、キリストとの友情の交わりの時間です。この沈黙の祈りの時間はカルメル会の特徴となる祈りで、共同体はご聖体の前で祈ります。念祷の時間に忠実であることによって、キリストとの対話は発展し、私たちをキリストの親しい友としていきます。「わたしにつながっていないさい、わたしもあなたがたにつながっている」、「あなたがたがわたしの名によって何かを父に願うならば、父はお与えになる」(ヨハネ 15:4、23)とあるように、キリストとの親しさの中で、神である父のみ心を受け取り、キリストを通して、祈っていきます。これがカルメル会修

道女の使徒職です。父のみ心の全容はイエスが教えてくださった「主の祈り」の中に含まれています。

※ カルメル会にご関心をお持ちの方は、どうぞ遠慮なくご連絡ください。連絡方法は、電話(083-929-0264)あるいはファックス(083-929-0268)でお願いいたします。



# 心の泉



私は 死ぬのではありません  
命に入るのです！

私を引き付けるもの それは愛です！

愛し愛されること そして  
愛を愛させるために  
地上に戻ってくることです  
～幼きイエスのテレーズ～

9月30日は小さき花、テレーズの命日です。  
命日は、日本語では「亡くなった日」として使いますが、ラテン語の命日 *dies natalis* は「誕生の日」を意味しています。テレーズの残した言葉にもはっきりとその意味がうかがわれます。

「私は死ぬのではありません。命に入るのです。」  
「まもなく、私の使命がはじまろうとしています。  
人々に神さまを愛させる使命が。」

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父は  
テレーズ帰天50周年記念にあたり、次のように予見していました。

幼きイエスの聖テレーズは、靈的生活の歴史上もっとも偉大な指導者の一人に数えられよう。私は彼女を、聖ベネディクトやアヴィラの聖テレサの傍におきたい。テレーズの影響はすでに現代に及んでいるが、将来なおいっそう多くの影響を与えるに違いない。 \*

～幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父～

帰天100周年にあたる1997年、テレーズは女性では三人目の教会博士に挙げられました。「唯一つの国に布教するのでは足りません。世界の五大陸、もっとも遠い島々まで・・・幾年かの間だけでなく、この世の終わりまで・・・」というテレーズの果てしない望みは実現しているといえるでしょう。「幼子のように神のいつくしみの愛に信頼する」恵みをテレーズの *dies natalis* にあたって願いつつ、

伊従 信子

ノートルダム・ド・ヴィ

\* 『わがテレーズ 愛の成長』マリー・エウジェンヌ著  
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ著、サンパウロ社



## 修道犬クロ

くのり 彰

先々月、十勝女子カルメルへ黙想指導のために出かけた。

ミサや講話や面談や祈りの空いた時間に、修道院の勝手口？につないである修道院の小さな犬「クロ」の散歩にでかけた。とは口実で、私自身が散歩を必要としていたのかもしれない。

以前は、姉妹たちのために働いていた男性信者の方が毎日、雨の日も風の日もクロを散歩に連れて行っていたと言うので、これはかわいそうと思い、連れ出したのだが、何となくクロの足もとが――私の足もとも？――たよりない。よぼよぼした感じなのである。運動不足で足が弱っていたのだろうか。帰ってうかがったら、人間で言えば80歳ぐらいのおばあちゃんだとのこと。私より年上だったのだ。

時々、散歩に出かける前に、エサやお菓子をあげたが、知らんぷりしている。お腹がすいてないのかと思うと、目の前に置くとちゃんと食べる。これも姉妹に確かめた所、はたして白内障にかかっているという。両眼が白く濁り、奇妙な目つきになっていた。また耳も遠い。小さな声で呼んでも気がつかない。ところが、急に吠えだすこともある。聞こえている時もあるようだ。犬にも勝手つんぼがあるのだろうか？鼻はしっかり機能しているようなので、匂いで反応しているのかもしれない。

いずれにせよ、散歩している間、クロも私も、神様からいただいた同じ命を生きているのだと実感した。老いた小さなクロが自分自身のように思えた。

とにかく修道服を着た私とクロは、毎日、30～50分程度の短い散歩に出かけた。一日に二回、三回と出かけた時もあった。クロの行きたい方向へ歩いて行き、帰る時間を考えてもどってくるのだが、感心したのは、強情をはらないことである。折り返し地点に来ると、クロはさらに先へ行こうとする。私はもどろうとする。紐がピーンと張り、緊張関係が生じる。しかし、「クロ、もどろう」と私が言うと、何とクロの方から方向転換をして、来た道を引き返すのである。

従順とは、「神の意志（長上の意志）に自分の意志を適合させること」とアヴィラの聖テレジアは言っているが、クロはその意味では、従順の模範であった。「門前の小僧習わぬ経をよむ」。長い間、修道院にいたので、立派な修道者ならぬ立派な修道犬になったようである。人間の場合は、長くいてもなかなか難しいのだが……



# ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧（146）



## 謙遜であり、かつ確信に満ちていること

私たちが星を見つめたり、多くの銀河の中に入り込むと、私たちは全く卑小で無意味な存在に思われてきます。そのため、私たちが行ない、発言し、考えることはみな、まったく無駄なことのよう思われてきます。けれども、私たちが自分の魂の中をのぞき込み、内的生活の無限の銀河の中に入り込むならば、私たちが行ない、発言し、考えることのすべては、非常に重要なものとして立ち現われてくるのです。

私たちは、謙遜であると共に確信に満ち、ユーモアに富むと共に真摯であり、ふざけると共に責任感のある者としてとどまるよう、二つの道を眺め続けなければなりません。そうです、人類は非常に小さな者であると共に非常に大きな者なのです。この二つの間の緊張こそ、私たちを霊的に目覚めたままにしてくれるのです。

(0406)

## 一つの信仰の二つの側面

私たちと共なる神となるために御子を遣わされた神、私たちの内なる神となるために御子と共に聖霊を遣わされた神への私たちの信仰は、教会への信仰なしには、現実的なものとは成り得ません。教会とは、人々の、ありそうもない体であり、この人々を通して、神は私たちに対する神の愛を現わそうと彼らを選んだのです。ほぼ二千年前、中東のあまり重んじられていない小さな町に住む若い乙女の中に、神が人となることを選んだということは、私たちには、ありそうもないことに思えるように、神が、絶えず議論や偏見や権威の衝突や権力闘争で引き裂かれている人々の共同体の中に、救いの業を続けることを選んだということも、ありそうもないことのように思えるのです。

しかし、イエスを信じることと、教会を信じることは、一つの信仰の二つの側面なのです。それはありそうもないことですが、神的なのです

(1019)

(九里 彰訳)

## 十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (50)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

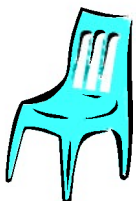
### セゴヴィア

十字架のヨハネは、セゴヴィアでは修道院からほとんど出ませんでした。定期的に、跣足カルメル会修道女の共同体に告解の秘跡のために出かけていました。またアナ・デ・ペニャローサ夫人の家、修道院の脇に彼女が建てた小さな家ではなく、町に持っていた大きな邸宅に行くためにも出かけました。何のために行ったのでしょうか。

そのことを、ヴィクトリア・デ・レオノールという、アナ夫人の家に雇われていた女性の一人が、私たちに教えてくれています。

「この証人は、聖なる十字架のヨハネ修父を知っていて、彼に会い、しばしば話をし、告解していました。同時に、この証人は、しばしばアナ夫人の家で、彼が、彼女の姪であるイネス・デ・メルカード・イ・ペニャローサ夫人と、並みいる女中たちの前で、霊的な聖なる事柄や天国の事柄について、またどのように聖なる者となるかについて話し論じているのを、また会話はいつもこのようなものであったことを見ていました。また時々、このようなことについて論じながら、何らかの敬虔な文章を彼女たちに読んだり、他の時には、彼女たちが主について論じ、主に仕えるために、書かれていた文が載っている本を彼女たちに残して行きました」。

そしてこのようなことも付け加えています。「くだんのアナ・デ・ペニャローサ夫人に会いに来ると毎回、夫人は彼に（良い椅子に）坐るように、床に坐らないように言いました。聖人はそれを望まず、いつも坐るためにはもっとも卑しい場所を探していました」。(続く)



### 年間第23主日 (A)

「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、  
わたしもその中にいるのである。」 マタイ 18:15-20

聖書の中で、それが最初に書かれた何年も前と同じように今日の私たちの生活に適していて、実質的なことばに出会います。このマタイの福音書は、教訓、調和、主の現存を扱っています。この句は、普通「共同体垂訓」として知られている福音書の4番目の垂訓の一部です。ここで扱っていることは、共同体生活、あるいは会衆生活についてであって、本来個人的なことではありません。エゼキエルのように、全てのキリスト者は共同体の他のメンバーについて関りを持つように招かれています。私たちの信仰は共同体の信仰であって、単に個人の信仰ではないからです。私たちはいっしょに行動します、ですから私たちはお互いに助けあうことができますし、神の名において働くことができ、それによって、私たちは神が求めていることを行う資質や能力を倍増します。私たちの共同体は、神の体験に対する命綱であり、神の民の中で動く神の力の実例です。

共同体の誤っているメンバーを取り戻すためにマタイが示唆している方策は、もっともらしくみえるかもしれませんが、しかし、ポイントは本来の心配と関心であって、独善でも執念深さでもないことを悟ったとき、それらは新しい意味を帯びてきます。誤っているメンバー、共同体の指導者、及び共同体は皆気まま勝手と自己中心的な行動から守られます。

個人的な霊的な祈りの生活が私たちそれぞれにとって重要であり、私たちが神とのみ時間を過ごす必要がある一方、主の名において集められた他者と分かち合う礼拝と祈りに定期的に注入されなければ、乾燥し内部向きになってしまいます。いっしょに集まることは、私たちがお互いにどれほど重要であるか、どれほどお互いに頼りあっているかを示してくれます。キリストを通してのお互いの絆を通して、私たちの共同体の中には、神の価値を地上の私たちの価値に結びつける力があります。これは、イエスが神の民の中でどれほど効果的に癒しの神の力と生命を与える愛とを私たちに使うことを可能にしてくださるかということです。私たちは神の名のもとにいっしょに来て、いっしょに留まり、いっしょに働き、神の現存に焦点を合わせ、私たちの生活と全ての神の子どもたちの生活を変えるために霊の力を解放します。

本日の第二朗読において、パウロは同様な方法で語り、お互いに行動で愛を示すためにローマの共同体に挑戦しています。キリスト者の共同体を特徴づけるのは愛であり、それを支え、養うのは愛です。この愛はまた正義への責務として自分を示さなければならず、誰に対してもどんな悪をも行うことのない愛なのです。このように、キリスト者となるということは、愛するだけではなく、困っている人には誰にでも手を差し出すように愛によって導かれる人になることを意味しています。共同体のメンバーのうち一人でも共同体の部分であると感じない人がいたならば、その共同体は完全ではないということ意識するべきです。

(Sr. Paulina)

年間第二十四主日 A マタイ 18, 21-35

「その家来の主君は憐れに思って、…その借金を帳消しにしてやった」(マタイ 18, 27)。

主君は、返却を猶予したのではなく、返却不可能な重荷にあえぐ家来の窮地を憐れんで、返済そのものを免除したのです。ここで使用される「憐れに思って」は、相手の痛み、苦しみを自分のものとして引き受ける、ある意味で相手以上に相手の現状の痛みを身に引き受ける心の構えを意味しています。神、イエス、あるいは彼らを象徴する人物にだけ使用されています

この主君の心の姿勢に関連するのは、まったく逆のものとしてですが、借金を帳消しにしていただいたこの家来が外に出て自分に借金のある仲間に出合って取った態度です。「捕まえて首を絞め、…その仲間を引っぱって行き、借金を返すまでと牢に入れた」。

「借金を帳消しにしていただいた」。それだけで大変な恩義ですが、実は、それ以上の恩義を主君から彼は受けているのです。その恩義とは、人の痛みを自分のものにする心の広やかさに生きる可能性であり、生きる喜び、この喜びを支える新しい源泉が与えられていることです。主君は、借金を赦す、それだけなら視線は過去に向いていることになりませんが、むしろ、未来、これから来る日々を生きる心の構え、共に生きる人たちを生かし、自分もまた生きる喜びを見出す能力、エネルギーを家来の心に注ぎ入れ続けているのです。借金を帳消しにしていただいた家来は、この新しい価値観、エネルギーが自分の中に注がれ、自分を生かしていることに気付くべきでした。この気付きに目覚めさせるように、主君は言っています。「わたしがお前を憐れんでやったように、お前も自分の仲間を憐れんでやるべきではなかったか」(マタイ 18, 33)。ここで使用される「憐れむ」は、先に主君が家来を前にして持った「憐れむ」とは同じ用語ではありません。先の場合には、神、あるいは、キリストだけが主導権を取って、創造的に開始する無償の憐れみ、愛の実行を意味していました。今回は、人間が自分の命の根底にまで下り、他人の苦境に共鳴する時、溢れてくる感情、憐憫の情、「切ない気持ち」を意味する言葉です。言ってみれば、自己中心的で、自分の利害にのみ集中する傾向にあるわたしたち罪人に残された最後の心の高貴さの中に働く、神の「痛む憐れみ」、罪人の中で新しい創造を始める神の愛の証しです。ルカ 渡辺幹夫

## 年 間 第 25 主 日 (A)

“あなたはわたしの気持ちのよさをねたむのか？このように、後にいる者が先になり、先にいる者が後になる。”(マタイ 20:1-16)

今日の福音朗読はブドウ園の労働者の喩えです。けれどもこのお話の焦点は労働者ではなくブドウ園の主人の一見不公平で理に合わないと思われる振る舞いです。ここには三つの印象的な論点があります。第一の点は、早めに来た四つのグループの人たちは主人から単にブドウ園に行くように命じられたのに対し、最後のグループの人たちは“なぜ、一日中何もしないでここに立っているのか”と尋ねられています。“だれも雇ってくれないのです。”と言う彼らの応えは、彼らは雇われる価値のない者、受け入れられず、望まれない者であることを示しています。にもかかわらず、彼らに最初のグループの人たちと同じ招きが与えられます。第二の点は、賃金の支払われ方です。先ず最後に来た人たちから支払われています。これは早く来た人たちの不満を募らせ、この不満に対する主人の応えを準備するものとなります。不公平なやり方に文句を述べる人たちに対する主人の応えは驚くべき第三の点です。“友よ”という主人の呼びかけは寛容な慈しみに満ちている主人の気持ちをよく表しています。主人は労働者たちが同意した賃金を支払ったのですから、不公平なことは無い筈です。また最後の人たちに対して、初めに来た人たちと同様にすべきであると決めたのも主人です。ここに愛と慈しみ、優しさから溢れ出る行為の際立つ特徴があります。最後に来た人たちは彼らが得たものに値しませんでしたが、主人の慈悲によってそれが与えられました。イエスが宣言された王国の礎となっている恵みの世界では、他者と比べてより優れた者がその報酬を受けるという考えは正しくないことなのです。

この喩えの根本的な教えは、神の恵みは最後に来た人にも与えられるということです。望まれない、価値の無いとされている人たちでさえ、初めに来た人と同じ報酬が与えられます。自分に合わない生き方や振る舞いをする人たちを批判しがちな私たちは、このことを深く心に留めなければなりません。自分が少しでも優れているとか信仰深く思えるようなことがあったら、それはいただいた恵みの結果であることを思い出しましょう。神の恵みが無ければ、私たちはその祝福や恵みをいただく値打ちさえありません。全ては神の恵みの結果です。

今日の喩えは私たちに、この世に繰り返されている神の正しさは人間的な厳しい融通の利かない裁きの認識をはるかに超えた、限り無いものであることを再認識させます。実際、恵みはどんなに一生懸命努力しても得ることはできないのです。慈しみと優しさは正しさに立ち向かうものではなく、喩えの労働者に対して為されたように、正しさを超えて働くのです。神のなさりかたは人間的なやり方と異なっています。

(Sr. Paulina)

「この二人の内、どちらが父親の望みどおりにしたが」(マタイ 21, 31)。

今日の福音は、「マタイによる福音」にだけ報告されるたとえ話です。これを聞いて、反射的に「ルカによる福音」第十五章の放蕩息子のたとえ話を思い出すのではないのでしょうか。そこでは、「悔い改める一人の罪人については、悔い改める必要のない九十九人の正しい人についてよりも大きな喜びが天にある」(ルカ 15, 7)、この人間の思いを越えた喜びに招かれることについての三つのたとえ話が語られていました。そうとしますと、今日の福音の主題も、「悔い改め」によって入らせていただく喜びにあるのではないかと思われれます。確かに、今日の福音には、「悔い改め」は出てきませんが、「考え直し」が出てきています。この言葉は、関心を寄せる、気にかかる、心配する、重要視するなどを意味するのですが、特に、相手の気持ちを思いやる想像力、能力に力点があるようです。自分の利害、感情のみしか考慮に入れることができなかつた者が、自分を越えた相手の期待、感情、気持ちを押し量り、相手との深い生命的共鳴に入る能力に開かれることです。考え直すのは、自分の損得勘定から見て利益ではなく、害をもたらすと納得したから考えを変えるのではなく、自分を忘れて相手の身になってみることができるからこそ生じる態度なのです。それで、「この二人のうち、どちらが父親の望みどおりにしたか」とのイエスの問いは、「どちらが、父親の言葉で表明された命令を最終的には果たしたか」である以上に、「どちらが、父親の思い、心、喜びを思いやり、それと共鳴しようとしていたか」との問いになるのです。字面だけで父親の命令を守る、守らないが中心ではなく、父親のすべてを思いやることができ、その結果として命令が実行できているのです。

さて、今日の福音の二人の兄弟、どちらも百点満点の欠陥のない人間ではありません。そうです、人間は、誰も神の前に完全なものではないのです。しかし、この自分が完全なものではない、と自覚すること、ここに、父なる神の思いを思いやる始めがあります。「徴税人や娼婦たちの方が、あなたたちより先に神の国に入るだろう」。「神の国に入るだろう」とは、誤解に導きやすい訳です。むしろ、「今、すでに、神の国に一歩足を踏み入れさせていただいている」と訳されるべきではないのでしょうか。それを見ても、祭司長や民の長老たちは、「考え直す」ことはなかつた、自分たちの真実な姿にも、神の父の寛大な愛にも思いを向けることはなかつたのです。ルカ 渡辺幹夫

## 祈れないとき

丸山知佳子

あなたには、祈れないとき、ありませんか？ わたしには、ありますよ。

一番、苦しくて、不安や恐れでいっぱいするとき、そんなときに限って、祈れなくなることがあります。「もし～が起こったらどうしよう」という構文で、頭の中がいっぱいになってしまうとき、病気するとき、心がなえているとき、耐えがたく悲しいことがあったとき、そんなときにこそ、お祈りをして、神さまへの深い信頼のうちに、すべてを委ねることが、一番良いことなのだとは頭ではわかっているのに、どうしても、どうしても、祈れないときがあります。そういう体験をしているのは、決して、わたしだけではないと思います。これをお読みくださっているあなたも、もしかして、そうかもしれません。つらいですね・・・苦しいですね。

最近、そんな時にでも出来ることを、ひとつ、思いつきました。それは・・・

「神さまのあかちゃんになること」です。どうしたらいいのかわからなくて、おびえて、心細くてたまらず、ただ、オギャーオギャーと泣いている、壊れてしまいそうに小さなあかちゃんを、パパである神さまが、御手を伸ばして抱き上げてくださらないはずがないですよ。

東日本大震災から5カ月が経ちました。

あの日眼にした光景はこれからも決して脳裏から消え去ることはありません。

それでも5ヶ月後の今、テレビで見る鎮魂と復興への願いを込めた東北地方の夏祭りの様子や、私の身边に触れることの中などに、一人ひとりの悲しみを抱えながらも前へ進もうとする意志を感じて、塞がった心の内が少しゆるむ気がしています。しかし、現地に行って来た友人の話にきく未だ収めきれない悲惨な状況があり、又時間の経過が却って痛みを深めることもあるようで、あらためて事の大きさに戦くのです。

十 その人とはスポーツクラブで度々顔を合わせるので互いに見知ってはいるのですが、これまで挨拶以上の言葉を交わしたことはありませんでした。

それが或る日、ふとした立ち話が思いもかけないことに互いの緊密な時間となりました。

気仙沼の出身であること、親族縁戚の殆ど全員が同じ地域に住んでいること、3月11日津波と火災に襲われて全世帯と云っていい大半が水に流され火に焼かれ多くの方が亡くなったこと、当初は通信の手立てが一切なくて気が狂いそうだったこと、などなどをたどたどしく語るのを聴きました。

それから間もなく急に姿を見なくなり心配していたのですが、ひと月近く経った頃に顔を合わせました。身も心もう限度いっぱいだったのでしょう。

心身の不調甚だしくパニックやうつ症状がひどく、病院通いの毎日だったとか。私はそれを聞いて不謹慎とはいえ却ってほっと安堵したのです。あのままではとても無理です。8月になった現在も行方のわからない従兄さん方ご親戚が14人もおられるということ、本当に返す言葉がありません。

「もしかしたら私らよりもいなくなった皆の方がどこかで安らかに落ち着いているかもしれない そう思いたい」と以前に比べてずいぶんとしっかりした表情で云われ、私も一緒に肯いたことでした。

十 知人の若い女性のことです。彼女は被災地、被災者とは何ひとつ直接には接点がないにもかかわらず、3月11日以来徐々に具合が悪くなり治療を受けていたのですが、とうとう職場を長期休職せざるを得なくなりました。

夜眠れず震災のニュースに触れると涙が止まらず胸が苦しくなると云っていたのですが、会うことがなくなった今、連絡をとり合う間柄ではないのですが



私は暗澹とした思いをどうすることもできません。 彼女は震災に何をみたのでしょうか。

十 毎週日曜日、上野毛教会の7時のミサ後、「東日本大震災の痛みを共に担う」フリーマーケットが、前庭の隅っこに数時間小さなお店をひらきます。 小さな台の上に心のこもった品々が並びます。 手作りのジャム、トマトソース、ピクルス、佃煮など・・・それからつやつやのトマトや胡瓜など・・・

小さな台の横には冷たい麦茶も用意されていて、熱中症予防の水分補給を有り難くおいしく賜ります。 そこには「痛みを共に担う」心が、労力が、満ち満ちて溢れ、集う人びとに自ずと伝わって和やかな輪が生まれています。

寄せられる助け合いの心は積もり積もって相当額の義損になっていることを、先の日曜日、皆で拍手で称えました。 毎週私が教会に着く7時前には、もうすでに数人の方がたが準備をされています。 親しいお仲間の顔もあって私はいつも感謝、よろこび、心強さ、・・・温かな気持ちで胸をいっぱいにして早朝の挨拶を交わしてからお聖堂の扉を開けます。

ミサ後、お店開店の直前には「被災された方々のための祈り」の小さな紙片をそれぞれ手の中に持たれて、声を合わせ祈っておられます。 私も一度傍らで祈りを共にさせていただきました。 この小さなお店に触れつつミサに与る時のそれを何と表現したらよいのでしょうか。 悲しみもよろこびもあらゆる全てがキリストの内に在ることを身にしみて知るのは、ミサ聖祭のキリストの現存は深く深く迫り来て、私の魂はより切実に、より真剣にキリストに出会うのです。

3月11日は、大きな大きな犠牲をもって人間に、一人ひとりに、大きな大きな問いかけをしたのだと思います。 或る詩人は「書く」ということの根源に立ち戻れたと云い、或る音楽家は創作態度の全てが変わったと云っているのをききました。 3月以来ノートに毎日記している死者と行方不明者の数字の推移を指でたどり祈る時、魂への恵みのようにして心の奥底に映る情景があります。 3月11日に心を置いた人びとがキリストの十字架を背負いキリストと共に歩く姿です。 恵みとはキリストの苦しみと同義であることをしっかりと覚えて、今ここに在ることを心開いて受けとり、委ねて生きることをどうか導き守ってくださいと、主イエズスキリストに包まれ覆われて祈ります。

## …ケリトの水にうるおされて…

カルメルの聖人たちの祈り

### 23. 福者テトス・ブランズマ (1881-1942) — その8

福者テトスは、1881年2月23日、オランダ北部のフリースラント州(フリジア地方)に生まれた。オランダではカトリック信者は少なく、当時、カトリック信仰が禁じられていたにもかかわらず、家族は熱心なカトリック信者であり、フランシスコ会に入会した兄と、修道女になった三人の姉妹がいる。彼自身、幼いころから司祭になることを志し、1898年9月、オランダ南部のボクスメルで履足カルメル会に入会。修練期の間に、アビラの聖テレジアの著作に親しむようになり、その翻訳を手がけ始めた。1905年司祭叙階、1909年、ローマの教皇庁立グレゴリアン大学で哲学博士号取得。オランダに帰国して、神学生の養成に携わる。教授職の傍ら、カルメル誌を創刊し、1916年には、アビラの聖テレジアの著作の翻訳を進めるためのグループを結成、他方で地元の新聞の編集者に選ばれるなど、ジャーナリズムの分野でも活躍する。1923年に創立されたナイメーヘン・カトリック大学の設立にも関わり、哲学と神秘神学史を教えた。

ジャーナリストとしては、世界の善益のためにメディアを積極的に活用し、真実を公言してナチスに抵抗、ナイメーヘンでは学生から慕われる教授であり、神秘神学の講義においては、自身の深い祈りの生活の実りを語っていることを感じさせていた。カルメル会においては、共同生活を重んじ、すべての勤行に参加した。十字架の神学に深い興味を抱いており、それは、彼の未来を準備することとなったようである。

1942年1月、ナチスにより逮捕される。彼は自分を逮捕しに来た人をも許し、イエスの足跡に従った。ナチスは彼を最も危険な敵対者とみなし、収容所を転々とさせた。獄中で、詩を書き残した他、アビラの聖テレジアの伝記を書き始めたが、未完のまま終わっている。8世紀にフリースラントの地に初めて信仰を伝え殉教した聖ボンファチウスをまつる教会のために書かれた十字架の道行きの黙想も、獄中でしたためられたものである。1942年7月26日、ダッハウ強制収容所で石炭酸の注射により殉教、訪れるところには、どこにでも——ダッハウにさえ——幸福をもたらしたその生涯を終えた。1985年11月3日、教皇ヨハネ・パウロ2世により列福。聖テレジアと十字架の聖ヨハネを深く愛したテトスの列福は、履足・跣足の両カルメル会にとつて大きな喜びとなった。



福者テトス・ブランズマ

—— 祈り ——

十字架の道行きの黙想——聖ボニファチウス教会のために

第11留 イエス 十字架に釘付けられる

おお、イエス、粗い釘で十字架の二本の木に打ち付けられ、その傷のところから吊り下げられたまま、痛みと体力の消耗のために長い時間をかけて死んでいくことは、あなたにとって、なんという恐ろしいことだったでしょう。

おお、マリア、処刑人たちが神である御子の手と足を刺し貫き、十字架に釘付けにした、あの残酷な金槌の音を耳にされたとき、シメオンが予言していた悲しみの剣は、あなたの心を刺し貫いたに違いありません。

おお、聖ボニファチオ、フリジア人の異教徒たちが、あなたの同志たちを剣と槍で刺し貫き、ついにはあなたの体にも武器を突きつけて致命的な傷を負わせたとき、あなたは鑑(かがみ)なる神の磔刑を思い起こしながら、勇気と犠牲を捧げる心構えとともに、堅忍するための力をも引き出されたに違いありません。あなたと同じ勇気と犠牲を捧げる心構えをもって、神が私にお送りになる試練を受け止め、それに耐えることができる恵みを、私のために勝ち得てください。

おお、心優しく……イエス……(訳注:この後は、省略されている)。

第12留 イエス、十字架上で息を引き取られる

おお、イエス、私たちのために死ぬことをあなたがどれほど望んでくださったか、あなたの使命のすべてが失敗に終わり、全生涯が無駄であったかのように死の国に入ることをどれほど望まれたかということは、私たちの理解を超えた神秘です。それは、表面的には、あなたの敵対者の勝利なのですから。

おお、マリア、神なる御子の使命がこのような結末を迎え、あなたの目の前で御子が最も残酷で恥ずべき死を遂げられたのを見ることは、どんなにつらいことだったでしょう。

おお、聖ボニファチオ、あなたの死は、あなたの模範であられた神の死に似ています。あなたは、フリジアを回心させ、神と出会わせようと、三度試みられましたが、最後となった三度目の試みも失敗に終わったかのようにでした。彼らは、あなたと同志の方々を最も残酷なやり方で死に至らしめ、すべての努力を踏みにじったのです。苦しみだけが勝利に導くことを心に留めながら、あなたとともに、神である私たちの鑑(かがみ)のうちに、私たちを映し出すことを、教えてください。

おお、心優しく……イエス……(訳注:この後は、省略されている)。

\* \* \* \* \*

この記事は、跣足カルメル在世会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注) タイトル中の「ケルトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダン河の東にあるケルトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(Ⅰ列 17:3-4)」ということばに由来しています。

(泰阜カルメル会訳・編)

# いのちの言葉 8月

**御覧ください。わたしは来ました。  
御心を行うために。**

(ヘブライ人への手紙 10・9)

これは詩編40章に出てくる一節ですが、ヘブライ人への手紙の中で、著者は、この言葉を、御父との対話の中で、御子の口にのぼらせています。それは神の子が御父のみ旨に従い、救いの業を成就するため、どれ程の愛をもって人となられたかを強調するためです。

このみ言葉が記されている文脈の中で、著者はイエスのいけにえが旧約の律法に記されたいけにえに比べて、どれ程すぐれているかを示そうとしています。律法に記されたいけにえでは、動物など、人間ではないものが、神様に献げられました。けれども、イエスは大きな愛に押し動かされて、地上での生活を通して、ご自分の意志とご自身を御父に献げられたのです。

**御覧ください。わたしは来ました。  
御心を行うために。**

このみ言葉は、私たちがイエスの生涯を深く読み取るための鍵になります。つまり、イエスの幼年時代、その隠れた生活、受けられた誘惑、イエスのされた選択、公的活動、十字架上の死に至るまで、イエスが地上で送られた生活のあらゆる出来事の背後に、それらを結ぶ金の糸を

見出し、私たちがその最も深い面について理解する助けとなるのです。毎瞬、あらゆる状況の中で、イエスがなさろうとしていた事は、ただ一つでした。それは、御父のみ旨を果たすことです。しかも、それを徹底的に実行され、み旨以外は何も行われず、たとえ魅力的なことであっても、それがみ旨と完全に合致していないなら拒否されました。

**御覧ください。わたしは来ました。  
御心を行うために。**

このみ言葉から、私たちは、イエスが生涯にわたり目指しておられた、偉大な教えを学びとることができます。つまり、何よりも大切なのは、私たちの意志ではなく、御父のみ旨を果たすことであり、御父に「はい」と答えられるよう、自分に対して「いいえ」と言える者になることです。

神様を本当に愛するとは、きれいな言葉や考え、また感情によるのではなく、具体的に神様の掟に従うことなのです。神様が私たちに期待しておられる賛美のいけにえは、私たちが自分のものとして一番大切にしているもの、すなわち私たちの「意志」を、愛の内に献げることで

す。

**御覧ください。わたしは来ました。  
御心を行うために。**

それでは、今月のいのちの言葉をどのように生きてらよいでしょうか。このみ言葉は、福音が持つ「世の流れに逆う」生き方を浮き彫りにするものでしょう。自分の意志を通そうとしたり、本能や感情に左右されたりしてしまふ、根強い私たちの傾向に逆行するものです。

このみ言葉は、特に現代人には受け入れがたいものかもしれません。なぜなら、私たちが生きている時代は、自己をまつりあげ、個人の自主性を重んじ、自由のための自由を追求し、自己満足を自己実現と見なし、好き嫌いで物事を選び、それこそが幸福の秘訣だと思っているからです。けれども、こうした現代文化がどのような災いにつながっていくかも、私たちはよく知っています。

このように自分の意志の追求を土台とする文化と、イエスの生き方は、正反対です。神様のみ旨を行うことに全力が尽くされ、神様が約束される素晴らしい実りがもたらされます。

では今月、私たちもこのみ言葉を生きながら、神様のみ旨を選び、イエスがされたように、み旨が私たちの生活全体の規範、原動力となるよう努めましょう。

そうすれば私たちは、神聖な冒険に乗り出し、永遠に神様に感謝することになるでしょう。私たちは成聖への道をたどり、多くの人々の心に神様の愛を輝かせることができるでしょう。

キアラ・ルービック

フォコラーレの創立者キアラ・ルービックが、2008年3月14日に帰天した後、彼女が過去に残した解説を「いのちの言葉」として取り上げます。今月の言葉は、1991年12月に発表されたものです。

★ **いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。**

★ **Power of Smile**

東北支援チャリティーコンサート

日時：10月9日(日)

14時～16時

場所：イグナチオ教会(四ツ谷)

1F ヨセフホール

チケット：1,000円

(義援金として被災地に送られます。)

連絡先

フォコラーレ：

03-3707-4018 / 03-5370-6424

E-mail: [tokyofocfem@ybb.ne.jp](mailto:tokyofocfem@ybb.ne.jp)

ホームページ：で検索

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito>

# 新刊紹介

神と人びとへの 燃える愛の心からあふれたでた短い言葉集

テレーズの短い人生のなかで残された言葉が  
四季の花々のように光をあび、輝いています。

毎日美しい1日をはじめるために 愛と信頼、委託、喜びの言葉！



レイモンド・ザンベリ / 編  
伊従 信子 / 編訳

女子パウロ会出版 391 ページ

# カルメル会の企画案内



# 上野毛霊性センター ～ ’12年3月

黙想企画 \*\* 聖テレジア修道院 (黙想) \*\*

## 1. 一泊聖書深読指導：新井延和神父

(毎回金曜日夕食～土曜日16時)

2011年

9月 9日～10日

11月11日～12日

## 2. 奉献生活者のための黙想会

2011年

12月27日(火)夕食～1月 5日(木)朝 福田正範神父

## 3. 木曜黙想会(毎回木曜日10時～16時)

2011年度共通テーマ 《いのち》

11月17日 「いのちであるお方とともに」 古川利雅神父

2012年

1月26日 「永遠のいのち - 霊から生まれた者は霊である -」 中川博道神父

## 4. 金曜黙想会カルメルの聖人(毎回金曜日10時～16時)

2011年

10月28日 「福者三位一体のエリザベット」 古川利雅神父

12月16日 「十字架の聖ヨハネ」 福田正範神父

2012年

2月17日 「幼きイエスの聖テレジア」 カルメル会士

## 5. 青年黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

11月25日(金)18時～11月27日(日)15時

## 6. 召命黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

10月8日 (土)15時～10日(月)15時



7. 祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時  
2011年12月24日(土)～25日(日)《講話なし、夕食なし》

8. 特別黙想会 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

テーマ:「私は神を見たい」

10月14日(金)20時～16日(日)16時 「祈り」

14日は夕食を済ませてご参加ください。

9. 待降節黙想会

12月 9日(金)夕食なし～11日(日)昼まで 指導:古川利雅神父



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までにお願いします。  
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません  
のでなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp

# 聖書深読黙想会

## 〈一泊〉

聖書は、いろいろな方法で読むことができます。  
指定された主のみ言葉を、幾人かと共に読み、それを互いに分かち合います。  
聖霊の照らしを受けながら、自分に語られる主のみ言葉を深く味わい、共に交わる人々と、お互いに心を養う機会としましょう。神と人に心を開くことは、福音を生きたることです。皆様のご参加をお待ちしています。

\*\*\*\*\*

\* 日時：2011年9月9日（金）18時～10日（土）16時

（曜日が金曜～土曜日となりましたのでご注意ください）

\* 場所：カルメル会聖テレジア修道院黙想・黙想の家

\* 指導：新井延和師（カルメル会司祭）

\* 会費：¥7000

\* 持ち物：筆記用具、洗面用具、パジャマ

（タオル、バスタオルは、各部屋に備えあります）

聖書、祈りの本は、黙想の家にあります。



参考書：「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎著 ¥1050）

ご希望の方は、黙想の家でお求め下さい。



お問合せ・お申込は、TEL、FAX、ハガキにてお願いします。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

Tel.03-5706-7355

Fax.03-3704-1764

## カルメル召命黙想会

# イエスと共に兄弟姉妹と共に



- 日時： 10月8日（土）15時～10日（月）15時  
場所： カルメル会聖テレジア修道院（黙想）  
（東急大井町線上野毛駅下車）  
対象： 独身青年男女（45歳まで）  
定員： 20名  
費用： 一般10,000円 学生7,000円  
締切： 10月1日（土）  
指導： 福田正範神父・他カルメル会士



※ 住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、  
ハガキ・FAX・Eメールのいずれかで下記まで。  
折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25  
カルメル会聖テレジア修道院(黙想)  
電話：03(5706)7355  
FAX：03(3704)1764  
Email：mokusou@carmel-monastery.jp

## 特別黙想会 《わたしは神をみたい》

2011年10月14日（金）20時～16日（日）15時

### アビラのテレサの祝日にあたり

祈りのひと時を過ごしませんか。



— アビラのテレサ —

- ・ 他の人たちとはよく話すあなた方が、  
どうして神さまと話すことができないのですか…  
～『完徳の道』～
- ・ わたしを信じてください。  
あなた方が主のすぐそばに留まることになれば、  
彼もあなた方が愛をこめて彼を喜ばせようと  
努めているのをご覧になれば、主も決してあなた方を見捨てられないでしょう。  
～『完徳の道』～

精神的にキリストのみ前に身を置き、  
その聖なるご人性に対する  
最大の愛に少しずつ燃え立ち  
常に彼のそばに留まり、  
彼に語り、  
必要を打ち明ける単純な言葉で話すように・・・  
これこそ短時日で祈りに進歩するすぐれた方法です。

～『自叙伝』～



- 指 導： 伊従 信子（ノートルダム・ド・ヴィ会員）
- 持参品： 新約聖書 『いのりの道』 マリー・エウジェンヌ著、『完徳の道』  
筆記用具、パジャマ
- 場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）  
158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25 Tel. 03-5706-7355
- 申し込み方法 ハガキまたは、FAX.03-3704-1764

## 金曜黙想会

### —福者三位一体のエリザベット—

神との親しさのうちに生き、26歳で天に召されたエリザベット。  
彼女の生涯と霊性に触れ、神との親しさに招かれてみませんか？

2011年10月28日（金曜日）10時～16時まで

場 所 : 上野毛聖テレジア修道院（黙想）  
指 導 : 古川利雅神父（カルメル修道会）  
会 費 : 3,500円  
持ち物 : ノート、筆記用具。



お申込み・お問合せは、ハガキ、FAX、E-mail、TELのいずれかで下記まで。

黙想会名と日程、氏名、年齢、性別、  
住所、連絡先電話番号、所属教会を  
明記の上、申込みをお願いします。

158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25  
カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)  
TEL 03-5706-7355 FAX 03-3704-1764  
E-mail [mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)

お願い: 申込は間違いを防ぐため、なるべくハガキ、FAX、E-mail でお願ひいたします。  
電話での問合わせは、午前9時から午後4時45分の間にお願ひいたします。

## 木曜黙想会

—いのちであるお方とともに—

私たちはいのちであるお方、父と子と聖霊の三位一体の神との親しい愛の交わりのうちに、ともに生きる様に招かれています。静けさのうちに、私たちを愛される神と共に過ごしませんか？

2011年11月17日（木曜日）10時～16時まで

場 所 : 上野毛聖テレジア修道院（黙想）  
指 導 : 古川利雅神父（カルメル修道会）  
会 費 : 3,500円  
持ち物 : ノート、筆記用具。



お申込み・お問合せは、ハガキ、FAX、E-mail、TELのいずれかで下記まで。

黙想会名と日程、氏名、年齢、性別、住所、連絡先電話番号、所属教会を明記の上、申込みをお願いします。

158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25  
カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)  
TEL 03-5706-7355 FAX 03-3704-1764  
E-mail [mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)

お願い: 申込は間違いを防ぐため、なるべくハガキ、FAX、E-mail でお願ひいたします。  
電話での問合わせは、午前9時から午後4時45分の間にお願ひいたします。



## 勉強会のご案内

■場所：カトリック上野毛教会（信徒会館ホール）

■担当：中川博道（カルメル修道会）

■どなたでもいつからでもご参加ください



### 「カルメルの靈性に親しむ」

朝のクラス・火曜日

《10:30~12:00》

夜のクラス・金曜日

《19:15~20:45》

|        |            |
|--------|------------|
| 10月25日 | 10月28日     |
| 11月22日 | 11月25日     |
| 12月20日 | 12月20日*火曜日 |

### 「キリストとの親しさ」

朝のクラス・火曜日

《10:30~12:00》

夜のクラス・金曜日

《19:15~20:45》

|        |        |
|--------|--------|
| 9月13日  | 9月9日   |
| 10月11日 | 10月14日 |
| 11月8日  | 11月11日 |
| 12月6日  | 12月9日  |

### 「キリスト教の基本を学ぶ」

—洗礼準備の為、又キリスト教の基本を学びなおす為に—

いずれも 金曜日

朝のクラス《10:30~12:00》

夜のクラス《19:30~21:00》

|    |        |                            |
|----|--------|----------------------------|
| 8  | 9月2日   | 「人間の問題性に関わる神」              |
| 9  | 9月16日  | 「イエス・キリストに出会う」             |
| 10 | 10月7日  | 「福音が語るイエス・キリスト」            |
| 11 | 10月21日 | 「イエス・キリストの自己理解」            |
| 12 | 11月4日  | 「キリストに近づく」                 |
| 13 | 11月18日 | 「教会：キリストに呼び集められた人々の集まり」(1) |
| 14 | 12月2日  | 「教会：キリストに呼び集められた人々の集まり」(2) |
| 15 | 12月16日 | 「キリストと共に生きる道」(1)           |

(お問合せ: carmel-reisei@hotmail.co.jp)

## 2011年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

### 【一般のための黙想】 1泊2日 (午後5時～午後4時)

- |                         |        |
|-------------------------|--------|
| 9月 3日(土)～4日(日) 人を赦すこと   | 今泉健神父  |
| 11月19日(土)～20日(日) ユダヤ人の王 | 新井延和神父 |

### 【聖書深読黙想会】

#### - 1日黙想 (午前10時～午後4時)

- |           |        |
|-----------|--------|
| 10月 8日(土) | 九里彰神父  |
| 12月10日(土) | 新井延和神父 |

#### - 水曜の黙想 (午前10時～午後4時)

- |                         |        |
|-------------------------|--------|
| 9月14日(水) 私たちの生活と十字架の十字架 | 松田浩一神父 |
| 10月12日(水) ロザリオの祈り       | 松田浩一神父 |
| 11月 2日(水) 死とは何か         | 新井延和神父 |
| 12月14日(水) 愛の生ける炎        | 九里彰神父  |

#### - 待降節の黙想 (午後5時～午後4時)

- |                     |        |
|---------------------|--------|
| 12月 3日(土)～12月 4日(日) | 松田浩一神父 |
|---------------------|--------|

#### - 聖テレーズの黙想 (午後5時～午後4時)

- |                    |       |
|--------------------|-------|
| 9月30日(金)～10月 1日(土) | 伊従信子師 |
|--------------------|-------|

### 【青年のためのキリスト教霊性】 (午後5時～午後4時) 対象：40歳以下の青年男女

- |                   |        |
|-------------------|--------|
| 11月5日(土)～11月6日(日) | 松田浩一神父 |
|-------------------|--------|

### 【奉獻生活者の黙想】 (午後5時～午前9時)

- |                     |        |
|---------------------|--------|
| 12月27日(火)～ 1月 4日(水) | 新井延和神父 |
|---------------------|--------|

－その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。－

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールで お名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)  
Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457  
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp



# 『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

## — 日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

### 【内容】

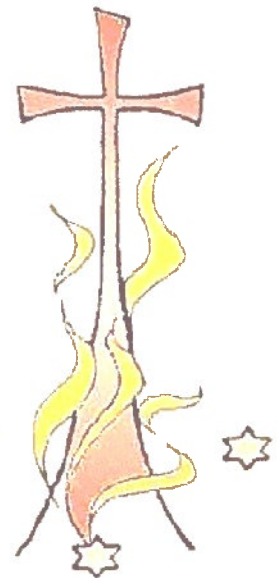
- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人 30 分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

### 【参加者人数】 6 人

### 【開催日】

- |   |       |                   |
|---|-------|-------------------|
| ① | 2011年 | 1月21日(金)～22日(土)   |
| ② |       | 2月18日(金)～19日(土)   |
| ③ |       | 3月25日(金)～26日(土)   |
| ④ |       | 4月15日(金)～16日(土)   |
| ⑤ |       | 5月13日(金)～14日(土)   |
| ⑥ |       | 6月17日(金)～18日(土)   |
| ⑦ |       | 7月22日(金)～23日(土)   |
| ⑧ |       | 9月 9日(金)～10日(土)   |
| ⑨ |       | 10月28日(金)～29日(土)  |
| ⑩ |       | 11月11日(金)～12日(土)  |
| ⑪ |       | 12月16日(金)～17日(土)★ |
| ⑫ | 2012年 | 1月13日(金)～14日(土)   |
| ⑬ |       | 2月10日(金)～11日(土)   |
| ⑭ |       | 3月16日(金)～17日(土)   |

(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)



【参加費】 各回 5,500 円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12  
カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)  
Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457  
E-Mail: [teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)

# 「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

## ～都会の中の一泊静修～（2011）

「私たちの間にある神の国を探して」—今の時代に芽生える神との新たな出会い—

「神の国は見える形では来ない、『ここにある』『あそこにある』と言えるものでもない。実に、神の国はあなたがの間にあるのだ」（ルカ17章21節）

“混乱の時代” “行き詰まりの時代” “崩壊の時代”・・・と言われる時代の中にも、「見よ、わたしは新しい天と新しい地を創造する。初めからのことを思い起こす者はない。それはだれの心にも上ることはない。」

（イザヤ65章17節）という神のみ言葉は力強く響き始めています。第2バチカン公会議終了後やがて半世紀を迎える現代世界と教会の中に、新しい神との出会いは生まれ始めています。

2011年はこの「神の国の芽生え」を私たちが日常生活の中に探す光を共に探しつつ歩みたいと思います。

|      |            |                       |                   |
|------|------------|-----------------------|-------------------|
| 第1回  | 1月10日(月・祝) | 混沌の中に差し込む光(創世記1章)     | 中川博道神父 (上野毛修道院)   |
| 第2回  | 2月26日(土)   | 主が示される地に向かって(創世記12章)  | 松田浩一神父 (宇治修道院)    |
| 第3回  | 3月12日(土)   | 絶望の中の光(イザヤ43章、65章)    | 高山貞美神父 (聖心布教会)    |
| 第4回  | 4月 9日(土)   | 新しい派遣(列王記19章)         | 新井延和神父 (宇治修道院)    |
| 第5回  | 5月 5日(木・祝) | 新しい契約(エゼキエル36章)       | 今泉健神父 (上野毛修道院)    |
| 第6回  | 6月25日(土)   | 神の国の芽生え(マルコ4章)        | 三上和久神父 (三馬修道院)    |
| 第7回  | 7月18日(月・祝) | わたしの中に生きるキリスト(ガラテア2章) | ポクダン神父 (南山教会)     |
| 第8回  | 9月17日(土)   | キリストの新しい錠(ヨハネ13章)     | Sr.パウルナ(宣教カルメル修院) |
| 第9回  | 10月22日(土)  | 新しい生活(改革)、アブリラの聖テレジア  | 松田浩一神父 (宇治修道院)    |
| 第10回 | 11月23日(水祝) | 新しい生き方の根、十字架の聖ヨハネ     | 九里章神父 (宇治修道院)     |

\* 時間 AM10:00~PM4:00

\* 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) \*聖テレジア幼稚園隣接

\* 参加費 1,000円

\* 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当

\* 定員 約30名

\* プログラム

- 10:00~ 祈り・導入・黙想
- 10:30~ 講話(1)
- 黙想・赦しの秘跡または面接
- 11:50~ 昼の祈り・お告げの祈り
- 12:15~ 昼食
- 12:50~ 黙想・赦しの秘跡または面接
- 13:30~ 講話(2)
- 14:45~ ミサ
- 15:30~ 茶話会・分かち合い
- 16:00~ 終了予定

☎ 申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825

一日静修連絡係 〒465-0058 名古屋市長東区貴船3-2115 小林 厚・晃子

TEL・FAX 052-701-3685

## 2011年度名古屋聖書深読会

第1回 了

第2回 10月29日(土) 新井延和神父(宇治修道院)

- 時間 午前10時～午後4時
- 場所 カトリック日比野教会  
地下鉄名城線日比野下車、徒歩約5分 \*聖テレジア幼稚園隣接
- 参加費 ￥1000
- 持ち物 聖書・筆記用具・ノート・昼食等

\* 毎回、事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

\* 申し込みは、開催日の3日前までに Fax またはハガキで下記へお願いします。信徒の方は、所属教会名も記載下さい。

\* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたでも構いません。

☎ 申し込み先

名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院

FAX 052-671-1825

☆連絡係

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115

小林 厚・晃子

TEL/FAX 052-701-3685

# 土曜フレックスタイム静修

日々の忙しさに追われている私達ですが、暫し立ち止まり、静かな祈りの中で神の沈黙の声に心の耳を傾けてみませんか。

参加する方のご都合に合わせて、プログラムの中で時間を選ぶことができます。

日時 毎月第3土曜日午後

9月17日(土) 10月16日(土)

11月19日(土) 12月17日(土)

場所 三馬教会(石川県金沢市)

プログラム

- 13:00 ～ 講話
- 14:00 ～ ベネディクション
- 16:00 ～ 聖体拝領、サルヴェレジナ
- 16:00 ～ ロザリオ
- 16:30 終了



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

電話 076-244-7788

三上 和久神父迄

## 聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

## 通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

### 1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話03-3344-2527（直通）

### 2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール [carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp)

2011 「カルメル」  
今日の霊性・夏号  
特集号



カルメル 2011 特集号

2011 夏 No.341

「混沌の時代に生きる道を探して」

特集

● 目次 ●

荒れ野を行く道

中川博道 2

キリスト教の歴史から学ぶ

川村信三 16

悔い改めた信徒のエネルギーと教会の再生

釘宮禮子 29

使徒職の現場から

松田浩一 37

神のいつくしみの中に生きる

イエスの聖テレサ 九里 彰 51

暗夜の中を歩む 十字架の聖ヨハネと共に

九里 彰 51

● 目次 ●

二〇一一年特集 マリー・エウジェヌヌ(2)

キリストの喜びとひとつに

ルイ・マンヴィエル 3

マリー・エウジェヌヌ師と司祭職

編・坂 中山 眞由 3

聖性への招き 十字架の聖ヨハネに導かれて (7)

変容までの長い道のり マリー・エウジェヌヌ 編・坂 伊藤優子 10

「完徳の道」におけるアヴィラの聖テレジアと離脱 九里 彰 15

カルメルの霊性の源流を探して (4)

——その「金則」に見る生活 中川博道 21

修道院生活 春夏秋冬 (2)

高橋重幸 27

乙女、使徒、殉教者たちの女王である勝利の聖母に

ペトロ・アロイジオ 33

死に臨む言葉

——エディット・シュタインの 須沢かおり 39

アウシュヴィッツへの道ゆき (3)

大きな視野・小さな視野 谷口正子 44

——第二バチカン公会議との関連で

愛の断章 奥村一郎 50

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等) 定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円 (+送料140円)】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】+送料【700円】計3,000円)を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会  
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

# 跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



## << Communications (時事通信) >>

跣足カルメル修道会総長は、第2回国際テレジア会議の開催において、基調講演を行います。

第2回国際テレジア会議の進行状況は、インターネット上で見るすることができます。

アヴィラースペイン発：2011年7月2日、

「完徳の道」に捧げられた第2回国際テレジア会議は、2011年8月29日から9月4日までの日程で開催される予定で、その内容はインターネット上で、スペイン語、イタリア語、フランス語、英語、ポランド語の5ヶ国語で再送信されます。

そのため、会議に関する情報はリアルタイムで、あるいは後から見るすることができます。

インターネット上でこの会議にアクセスするには、[www.teresadeavila.net](http://www.teresadeavila.net)への登録が必要で、このサイトは7月1日から開かれています。

この国際会議の目的は、毎年、イエスの聖テレジアの主要な著作が広く人びとに親しまれるように紹介していくことです。2010年は「自叙伝」、2011年は「完徳の道」、2012年は「創立史」、2013年は「靈魂の城」、2014年は「書簡集」を取り上げて開催され、そして2015年にはこれらの著作を集大成する大会議が企画されています。

他の目標は、聖女の著作のすべてにおける基本的な側面を理解すること、彼女の作品を読むための

新しいガイドラインと鍵を見出すこと、学際間や諸宗教間の対話を確立すること、さらにテレサによって提言された生き方を実践的かつ現代的に適用していくことです。

聖テレサの自筆原稿を含む、「完徳の道」に関する教育的な展示会は、会議を引き立てることでしょう。

跣足カルメル修道会の総長であるザベリオ・カニストラ神父は、この会議の開催において基調講演を行なうことになっており、タイトルは、「今日の人間と教会のための「完徳の道」」です。





9月14日 十字架称賛の祝日

主の十字架をあがめ、とうとみ、その復活をたたえよう。

見よ、この木によって、あまねく世界に喜びが来た



# 諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター  
真命山 霊性交流センター  
リーゼンフーパー神父キリスト教講座  
ノートルダム・ド・ヴィ  
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院  
マリアの御心会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。  
記載には注意を期しておりますが、  
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。  
よろしくお願い致します。



## 諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

### 心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは10日前迄に完了、お願いします。会場予約準備がありますので。

◎572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」藤原神父  
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com  
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

#### 2011年予定

- M 3 09/10 (土) -09/16 (金) 兵庫・売布・女子ご受難会
- N 3 09/24 (土) -09/30 (金) 滋賀・唐崎・ノートルダム
- K 4 10/07 (金) -10/13 (木) 東京・小金井・聖霊会
- F 1 11/4-9 福岡・黙想の家 (5泊6日)
- N 5 11/15 (火) -10/21 (月) 滋賀・唐崎・ノートルダム
- K 5 11/28 (月) -12/04 (日) 東京・小金井・聖霊会
- M 4 12/11 (日) -12/17 (土) 兵庫・売布・女子ご受難会

#### 2012年予定

- M 1 01/13 (金) -1/19 (木) 兵庫・売布・女子ご受難会
- K 1 01/24 (火) -1/30 (月) 東京・小金井・聖霊会
- M 2 02/13 (月) -2/17 (金) 韓国グループ限定 兵庫・売布・女子ご受難会 (4泊5日)
- P 1 02/11 (土) -2/17 (金) 西宮・女子トラピスチヌ
- K 2 03/02 (金) -3/08 (木) 東京・小金井・聖霊会
- B 1 03/10 (土) -3/16 (金) 千葉白子・十字架イエス・ベネディクト
- M 3 03/23 (金) -3/29 (木) 兵庫・売布・女子ご受難会

## 真命山 2011年 — 祈りの集いのご案内

真命山は、次の意向で来訪される方々を歓迎します

- ・ 祈りの時をすごし、静かに内省し、沈黙の中で黙想し、静修し、神のことばを聞く
- ・ 自然の中で自分の信仰の根源を探求する



真命山の一日の流れは、祈りと働きです

### 午前

- ・ 朝の祈り(太陽が昇る時)
- ・ 座禅
- ・ ごミサ



### 午後

- ・ インマヌエルの祈り
- ・ 晩の祈り(日没にあわせて)
- ・ 寝る前の祈り

毎第二木曜日、一般人参加による一日の祈りの集い。  
2011年の祈りの集いテーマは次の通り

### 典礼暦年間を通して教会とともに祈る



|           |          |
|-----------|----------|
| 1 月 13 日  | 典礼暦一年の周期 |
| 2 月 10 日  | 聖人の記念日 1 |
| 3 月 10 日  | 四旬節      |
| 4 月 14 日  | 過越の三日間   |
| 5 月 12 日  | 復活節      |
| 6 月 9 日   | 聖霊降臨の祭日  |
| 7 月 14 日  | 聖人の記念日 2 |
| 9 月 8 日   | 聖人の記念日 3 |
| 10 月 13 日 | 日曜日 主の日  |
| 11 月 10 日 | 待降節 1    |
| 12 月 8 日  | 待降節 2    |

毎月第二木曜日、一般人参加による一日の祈りの集いには、どなたでもご参加いただけます。ご参加希望の場合は、あらかじめ電話・ファックス・メールでお知らせください。

### 指導者

フランコ・ソットコルノラ神父  
(真命山院長)  
ダニエレ サルティ・サルトリ  
神父  
Sr. マリア デ・ジョウルジ

### 申し込み先

865-0133  
熊本県玉名郡和水町1391-7  
真命山諸宗教対話・霊性交渉センター  
TEL 0968-85-3100  
Fax 0968-85-3186  
E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。  
(要予約)

## リーゼンフーバー講座・集いの案内 2011年

### ●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分  
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルベホール。  
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

### ●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分  
聖イグナチオ教会信徒会館3階。キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

### ●土曜アカデミー 以下の土曜日、

9時30分～12時30分、岐部ホール4階404、  
19・20世紀近代・現代のキリスト教関係の思想・哲学・神学を考察します。思想史とキリスト教の関係に関心を持っている方、プログラム等に関してHP(文末)を見て下さい。

夏学期: 古代末期教父時代(2-7世紀)

9/3、9/10

冬学期: 中世のスコラ学・神秘思想(11-15世紀) 10/08、10/15、10/22、10/29、11/12、11/19

### ●坐禅会

月曜日 17時20分～20時10分

木曜日 18時～20時30分

(祝日、4月21日を除く)

場所: 上智大学内 Kulturl-Haus 1階正面左の部屋

3回坐り、間に講話があります。

初心者も歓迎です。遅刻も不定期の参加も可。

### ●接心

秋川神冥窟 1泊2400円程度

関東

09月21日(水): 20時30分-25日(日) 10時

11月02日(水): 20時30分-11月6日(日) 10時

### ●ミサ 水曜日 17時10分-18時

上智大学内 Kulturl-Haus 1階右小聖堂

どなたでも。但し祝日、8月全体、9月21日、11月2日、1月4日は休み。

### ●ミサ後の黙想

18時-18時30分 上智大学内 Kulturl-Haus 1階右小聖堂

どなたでも。但し祝日、8月全体、9月21日、11月2日、1月4日は休み。

### ●祈りの集い 下記の土曜日

13時30分-16時 上智大学内 SJハウス第5会議室  
講話、黙想、ミサがあります。

9月10日、10月8日、11月12日、12月3日、

2012年1月7日、2月18日、3月10日

### ●ロザリオの祈り 同日16時10分～50分

Kulturl-Haus 1階右小聖堂

### ●黙想

【会社帰りの黙想】

毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時

聖イグナチオ教会マリア聖堂、どなたでも。

但し祝日、8月9日休み。8月23日は上智大学内 Kulturl-Haus 聖堂。

【お昼の黙想】 毎月第1・3火曜日

10時40分～12時 聖イグナチオ教会

マリア聖堂 但し祝日、8月2日は休み。

### ●黙想会

9月17日(土)10時-18日(日)15時(東村山)、

11月26日(土)10時-27日(日)15時(東村山)、

2012年 2月4日(土)10時-5日(日)15時(東村山)

\*1泊5900円程度

[関西] 10月1日(土)13時-2日(日)15時(宝塚)

### ●アガペ会

10月22日(土)

2012年 1月21日(土)

説明会・集い(13時半～): 上智大学内 S.J.ハウス第5会議室

ミサ(17時～): Kulturl-Haus 1階テレジア聖堂

### ●クリスマス会

12月17日(土) 16時30分 聖イグナチオ教会マリア中聖堂(予定)、18時岐部ホール4階。要申し込み。

クリスマスのみサ

12月23日(金) 14時- 上智大学内 Kulturl-Haus 聖堂 (80人限定)。

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

[http://www.jesuits.or.jp/~j\\_riesenhube/](http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/)

## リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

### リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座 2011年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 09/02 聖霊— 神の愛に導かれる
- 09/09 祈りの本質とさまざまな祈り方— 神と関わる
- 09/16 洗礼と堅信— イエスに結ばれて生きる
- 09/17-18 黙想会(東村山)
- 09/30 教会の成立と意味— イエスを中心に集う
- 10/07 人間としてのイエス— 新しい人間像の基礎づけ
- 10/14 御子としてのイエス— イエスの神との関係
- 10/21 父と子と聖霊— 神の生命に与る
- 10/28 信仰の決断— 支えられて生きる
- 11/04 休み
- 11/11 ミサ祭儀— 神への奉仕と生活の糧
- 11/18 自己実現と神の意志— 生き方の規範
- 11/25 人間の弱さ— 罪とは何か
- 11/26-27 黙想会(東村山)
- 12/02 恵みとゆるし— 神の憐れみを受ける
- 12/09 愛の心— キリスト教の本質
- 12/16 隣人愛— 他人の内にイエスに出会う
- 12/17 クリスマス・パーティ(16時30分マリア中聖堂[予定]、18時岐部ホール4階)
- 12/23 クリスマスのミサ(14時、上智大学内クルトウルハイム2階、80人限定)



### リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座 2011年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

#### 根本的態度

- 09/06 唯一の掟— 愛による完成
- 09/17-18 黙想会(東村山)
- 09/20 基本的な態度— 判断力・勇気・節制
- 10/04 共同存在— 共通善・正義・奉仕
- 10/18 個人の道— 自己の課題の探究と聖霊の導き

#### 日常生活

- 11/01 対人関係と協力— 恵みである他者
- 11/15 身体と生命— 性と倫理
- 11/26-27 黙想会(東村山)
- 11/29 家庭と独身生活— 与えられた招きの発見
- 12/06 仕事と余暇— 能力の活性化と人生の実り
- 12/17 クリスマスのミサとパーティ  
(16時30分マリア聖堂[予定]、18時岐部ホール4階、要申し込み)
- 12/20 困難と苦しみ— 謙遜な自己奉獻と神への信頼
- 12/23 ミサ(14時、上智大学内クルトウルハイム2階)

#### 《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通)

-5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

[http://www.jesuits.or.jp/~j\\_riesenhube/](http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/)

## いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

### ●「いのちの泉へ」 すべての人のための祈りの集い

カルメルの霊性に学びつつ、キリスト者としての霊性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。

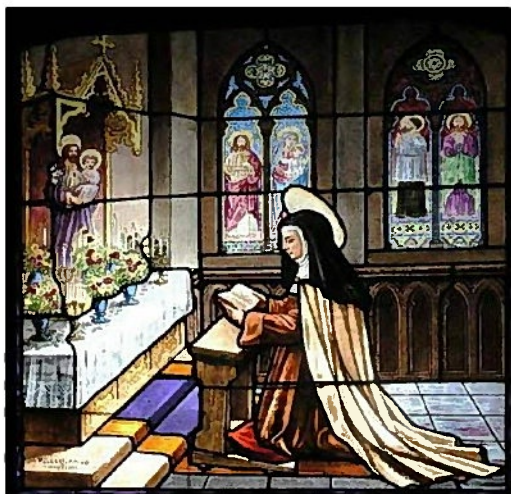
9月10日(土)  
10月8日(土)

申し込み・お問い合わせ  
ノートルダム・ド・ヴィ  
〒177-0044  
練馬区上石神井4-32-35  
TEL(03)・3594・2247  
Fax(03)・3594・2254  
E-mail notredamedevic.japan@gmail.com  
ホームページ  
<http://www.ndv-jp.org/>

講話 伊従信子  
午後2時～午後5時30分位まで、  
講話、祈り、分かち合い。  
参加費 200円

余震などの影響で、急遽中止になる事も考えられます。参加をご希望の方は、当日の午前～2時迄にお電話かFAXでこちらまでご連絡頂けますと幸いです。

カルメル会の霊性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉献を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。



## ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1  
Tel: 077-579-7580  
Fax: 077-579-3804  
E-メール: karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。  
琵琶湖の方へ徒歩 約13分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 了
- ② 了
- ③ 了
- ④ 了
- ⑤ 9月 23日 (金) ~ 10月 1日 (土)
- ⑥ 10月 19日 (水) ~ 10月 27日 (木)
- ⑦ 11月 14日 (月) ~ 11月22日 (火)
- ⑧ 11年12月27日 (火) ~ 12年1月 4日 (水) 予定

B. 祈りの体験：週末3日間（金曜日の夕食～日曜日の昼食）

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 了
- ② 了
- ③ 了
- ④ 了
- ⑤ 了
- ⑥ 9月 2日 (金) ~ 9月 4日 (日)
- ⑦ 12月 2日 (金) ~ 12月4日 (日)

C. 講話 黙想(奉獻生活者のため)

了

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者：菊池 陽子(ノートルダム教育修道女会) 松本 佳子(ノートルダム教育修道女会)  
その他 若干名

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて  
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。  
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさいたい  
方はご相談ください。(但し、上記の日程と7月30日～8月12日を除きます。)

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

**神を信じて生きてみる**

神の願いを知る  
神よ、私は何をすればよいのでしょうか

2011年 召命黙想会

日時 **9月17日(土) 15:00~**  
**18日(日) 15:30まで**

場所：ノートルダム唐崎修道院  
(JR京都駅から30分)

指導：山内 十束 神父 (御受難会)

対象：独身女性信徒

費用：2,000円

締切：9月11日(日)

<申込み・問合せ>

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1  
ノートルダム教育修道女会

Sr. 桂川

Tel 077-579-2884 Fax 077-579-3804

Email karainorind92@mbe.nifty.com

**「来て、見なさい」**

**「イエスとの関わり」**

—主よ、私の道はどこに—  
**祈りと分かち合い**

テーマ：イエスの癒し 9/4(日)  
：イエスの許し 10/9(日)  
：私の委ね 11/13(日)  
：私の選び 2012年1/29(日)

時間：14:00~17:00 \*ミサはありません。

対象：**自分の道を探している**

**35歳までの独身女性**

場所：**マリアの御心会** (JR信濃町下車3分)

会費：各回500円

担当：マリアの御心会会員

申込み：電話 03-3351-0297 締切り2日前





聖テレジアの少女時代  
Sir John Everett MILLAIS

# カルメル霊性センターニュース お持ち帰りの読者へ

## 献金のお願い

この霊性センターニュースは、編集、印刷、製本、発送等、すべてカルメル会霊性センターで行なっております。これまでは、無料で配布しておりましたが、カラー印刷機の導入等で経費がかさんでおります。そこで、

**お持ち帰りになる方には**

**一冊 100 円程度の献金  
をお願い申し上げます。**

〈上野毛教会の場合〉

献金の箱がある場合は箱へ、ない場合はピンクの封筒に入れ、教会維持費のポストへお入れください。

霊性センターニュース編集部

## 『霊性センターニュース』郵送ご希望の方

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を現金で送ってください。切手では受け付けておりません。これは、あくまでも郵送代実費です。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

## 「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

\* 献金される方は、下記の口座へお振り込みください \*

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

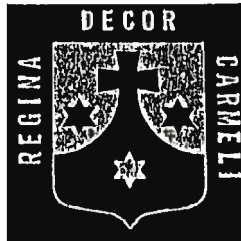
なお通信欄へは「献金」とご記入ください。

## 編集後記

先月は、長崎や広島の大原爆投下、8月15日の終戦記念日などで、戦争と平和について考えることが多かった。たまたま見たNHKスペシャルで、長崎の占領軍司令官ビクター・デルノア（アメリカ陸軍中佐）が原子爆弾を二度と使用してはならないと上層部へ訴えていたことを知り、驚くと共に、アメリカ人の良心を見る思いがした。彼は被爆した14歳の少女の詩を出版しようとさえしていた。

それは何故か。戦車部隊の隊長であった彼は、ヨーロッパ戦線で連合軍を勝利に導いた英雄の一人であった。その時、ユダヤ人強制収容所で地獄のような惨状を見たのである。そこでは、抵抗できない多くの市民、女性や子供が虫けらのように殺されていた。ナチスの残虐非道に対する怒りが彼の内に湧き上がり、正義のための戦いであることを確信したという。

ところが、長崎でまったく同じような惨状に遭遇してしまったのである。ここでも罪もない多くの人々、老若男女が犠牲となっていた。彼は市内各所で行なわれていた法要に参列し、病院を訪問して回ったということである。軍人でありながら、アメリカの国策に反して発言し行動したこの勇気ある司令官は、当然、その後の昇進が難しくなったことであろう。しかし、その行為は、ヨーロッパでの軍功以上に、光を放っている。 (P. 九里)



.....製本／発送のご協力お願い.....

「霊性センターニュース」の製本／発送は、原則として[毎月第四火曜日](#)に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「9月号」製本日 9月27日(火) 上野毛教会信徒会館ホール1階  
午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171